

マルチメディア応用外国語学習法

——フランス語でのホームページ作成——

ディディエ・ヴェステル

現在、マルチメディアの普及によりコンピューターというものは仕事の道具から日常的な道具になりました。

もちろん、外国語学習法にもマルチメディアの普及は影響があります。この論文では、インターネットのネットワークを、どういう風に外国語の授業に取り入れるかを、具体例として2001年度の大谷大学でのフランス語の授業の実践経験を紹介します。

具体的には学習者はパソコンを使用して次の作業に挑戦しました。

前期は、学習者が文章力を身につけるためにフランス語で自分のホームページを作るという作業です。内容を大きく2つのテーマに分けて、それに沿って、学習者が自分で考え作成するのです。1つめのテーマは自己紹介、自分の生活について表現すること、そして2つめのテーマは過去のできごと、自分の経験（旅行や出会い）などについて表現することです。

後期は、学習者が読む能力を身につけるために、インターネットでフランス語のホームページを探し利用し、フランスでのバーチャル旅行を計画するという作業です。

この実験的授業の結果、従来どおりの授業と比較し、以下のマルチメディア使用のメリットを実証することができました。

— 従来どおりの授業より学習者のモチベーションや学習意欲が向上すること。フランス語でホームページを作成すると目的を短期において自分の勉

強に意味を与えることができます。勉強の目的は自分でホームページを作って、そのホームページの読者とホームページを共有することになるわけです。普通のクラスと比較すると、このような授業の中で学生はワンセメスターで成し遂げなければならないことをはっきり知ることができます。そして、マルチメディアの利用によって、毎回学生自身が自分の進歩を見ることも可能になります。授業を経るごとに自分のホームページの情報が増え、それを見て満足するとともに、さらに積極的に取り組む気持ちになります。

— 学習者の自律が高まること。学習者が一人で自分のレベルにあわせて自分のペースで学習できること。従来どおりの授業では学生によってかなり差がある場合があります。教育者にとってその学習者たちのレベルの差異は大きな問題となります。この授業では、学生自身もレベルの差異を気にせず安心して自分の作業（勉強）に専念することができるのです。

— 学習者が今までの知識を生かせること。普通の外国語の授業では、学生は教室以外では学んだことを実践するチャンスが非常に少ないので、せっかく学んだことを覚えること・身につけることは難しくなります。フランス語でホームページ作成することにより、フランス語の新しい知識を増やすことではなく、今までの知識を生かすことを目的とした場を学生に与えることができます。

— 学習者と教師の関係が深くなること。学習者の目的はホームページの読者とのコミュニケーションになります。そこで道具としてのフランス語でより正確にメッセージを表現しようと努力することになります。そうすると、自分のフランス語の能力でうまく表現できない時は教師に助けを求めます。ここでは教師はジャッジをするのではなく、学生の目的達成のために、手伝い、指導する人になるのです。

— フランス語の能力だけではなく、情報リテラシーの方面でもこのクラ

スで能力を身につけられること。外国語で恐れずインターネットを利用する自信がつくと、社会に出てからもその能力を生かすことができます。

結論として以上のメリットに加え、外国語でホームページを作成しながら、外国語を学んでいるのではなく、外国語という道具を使ってインターネットの利用者のためにまた自分のために作品を作っていると感じることになり、外国語に対して持っている難しい・覚えられないというようなマイナスのイメージが変わり、外国語を楽しむこと、積極的に外国語に接する機会を持ち、外国語の勉強に興味を持つ可能性が広がるという効果もあり、大きな成果を得ることができました。